

I 経営の重点に関わること 評価段階(A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取り組み目標等)
いきいきと いっぱい 遊ぶ子	心を動かし 通じ合う	子どもの行動には理由があることを理解し、常に子どもにとってどうなのかを考えている	子どもの気持ちに寄り添いながら、側で支え言葉に表せない子どもの思いや考えに気付いたり、職員も子どもの行動が面白いと感じたりして、担任の垣根を超え伝えたい気持ちになった。しかし、面白いと感じた部分を通じ合っていると思っていたが、解釈にズレが生じることがあった。	A	A	子ども達が自ら挨拶をしてくれ、年少児が写真を見ながら職員の名前を覚えてくれた。 重点目標は、子どもファーストで通じたいという思いを感じる。また、子どもと関わりながら、「やってみよう」という気持ちに寄り添う姿勢が、子どもの思いや行動の理解に繋がると思う。	子どもを受容し、肯定的に見たりありのままの姿を捉えていきながら、安心した生活が送れるようにする。 心を通わせ、互いが共有でき、響き合っている保育者同士の語り合いを行っている。
		「さっきより今日」「昨日より今日」と遊びの変化を見逃さず、子どもと共に遊び、共に感じている	子どもの遊びを先入観で見ず、一緒に遊びながらそのものを捉えていくようにした。個々の遊びの変化に気づけるようになったが子どもの思いがたくさんあるため、見逃さないようにしていきたい。	A	A	子どもと一緒に寄り添って遊ぶことが、子どもの変化に気付く一番の方法だと思う。 園児のひらめきに応えることは大変だと思うが、子どもの一歩先を予想することは、それだけ子どもの興味関心を捉えやすと思う。	子どもの遊びや生活の中で感動や共感したときに「すごい」だけでなく「なにがすごいのか」「どこがすごいのか」を捉えていく。 保育者の都合で、行動や遊びを制限してしまうのではなく、子どもにとっての時間・場・空間が保障されているを考慮保育に当たる。
		やってみたい、もっとやりたいという姿に直ぐに応えたり、遊びの一歩先を予測して、環境の再構成を行っている	日誌の記入方法を変え、保育者が一歩先をより予測するようにした。子どもがすぐに遊びだせるような環境、前日より少し変化を加えた環境、子どもが今取り組みたい気持ちを迷さない環境、繰り返し楽しめる環境を準備するようになった。	B	B	年度途中で日誌の書式を見直し、職員がより見通しをもって環境設定ができたことが素晴らしい。	子どものパッションの見取りが、感覚的なもの捉えになっていないか見直す。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取り組み目標等)
1 こども園に おける教育 及び保育	(1) 0歳から小学校就学 までの一貫した 教育及び保育	子どもの発達や集団生活の経験年数を考慮し、安心安定して過ごせるように、柔軟で応答的な援助や環境を整えている	集団生活の経験年数を考慮しながら個々に合わせた寄り添い方に変えたり、一緒に考えたりしながら肯定的な関わりを繰り返してきた。どの職員にも信頼をおき安心して思いを伝えられるようになっている。	A	A	多様な子どもへの対応について共通認識しながら肯定的に臨んでいることは、どの職員も個々の子どもに同じ関わりができたため、子どもも安心して過ごせると思う。 様々な思いをもって登園した子どもに対して、まずは寄り添って受け入れる姿勢が、子どもが安心できる環境づくりに繋がっていると考える。	子どもの成長を保障する源となる、環境の充実、工夫を高めていく。保育者自身が、目配り、気配り、心配りができるようにする。
	(2) 一日の生活の連続性 及びリズムの多様性 への配慮	早番・遅番の時間も安心して穏やかに過ごすよう、家庭的な雰囲気を感じられる環境を作っている	気候や気温に応じて室内で受け入れゆとりと関われるようにした。今までは戸外で過ごすことが中心であったため、早番遅番の環境構成が不十分になった時期もあったが、環境を通した保育という観点にもう一度立ち返り、年齢に応じた準備が必要である。	B	B	小学校でも、特に低学年の子どもは思考はどんどん変化してきているため、子どもの思いとずれないように。事前にできるだけ子どもの言動や思考を色々予測しておいたり、一方でその思考に寄り添って色づけてみたりすることも大事にしている。	子どもの生活や遊びを捉えながら、子どもに相談したり職員同士話し合ったりしながら、環境の変化を続けていき、温かな暮らしが発展できるようにする。
	(3) 環境を通して行う 教育及び保育	子どもの姿や心の変容を瞬時に捉え、「もっ」とつながる関り(物的環境・人的環境)を工夫する	大人の関わりによって心の内に秘めているパッションをプラスもマイナスも出せるようになっているが、マイナスの感情の表出で自分や相手との折り合いがつかなくなってしまう事もある。今後は、一つ一つのパッションの中身をより豊かにしていけるような関わりを考え、安全な環境を整える時、場所や空間にも配慮し、子どもの遊びが深まるような保証をしていきたい。	B	B	子どもと一緒に遊び、声をかける事や、子ども自身に遊びの準備と片付けをさせることは大変安全に對しての意識向上になっていようと思う。また、子ども達の遊びの様子を見ていると、安全を知っているのが分かる。転んだり滑ったりすると、それも経験である。 他人の気持ちを知らず行動できるようになっている子が見られるのは、職員が相手の気持ちについて声をかけたり、一緒に考える場を持つようになりしている成果だと思う。 特許のある子どもが増加している中、子どもに携わる我々は今まで以上に子どもに応じた支援や対応が必要になっている。専門性の高い外部人材や外部機関と連携して研修をしていることは大変よい取り組みだと思う。	自分だけでなく相手も気持ちよく生活できるよう、一緒に考えたり提案をしたりする。しながら自分に向き合い折り合いをつけていけるように一人ひとりの背景に伴う複雑な心に寄り添っていく。
2 安全管理・ 指導	(1) 事故防止・防災	「なにこれ?」「あれ?おかしい!」これって大丈夫?」の気付きが示され、安全対策が実施されている。また、園児自らがどうしたらいいか考え、安全な行動の仕方が身につくようにしている	職員が、遊び方を子どもに任せずに、一緒に考えたり気づいていける声の掛け方をしているため、子ども達が自ら考え怪我をしないような遊び方に繋がっている。また、目の前の子どもだけでなく俯瞰的に子どもを見るなどして広い視野で守っている。	A	A	子どもと一緒に遊ぶことは大変よい取り組みだと思う。困ったことがあったときは、子どもも職員も助け合おうと言え関係を築くことが大切である。 ベテラン職員も若手職員も大切にされていることは、職員の異動があってもよい雰囲気をつくることや同僚性を高めることも繋がる。園長先生が職員の価値付けをされていることもよいと思う。	年齢にあった方法で、安全について知らせていく。また、自ら考えて行動できるように、一緒に考えたり、近くで見守ったりしながら考えたり経験したりすることを支えている。
3 保健管理・ 指導	(1) 健康教育の充実	健康に生活する習慣や態度が身につくよう援助している。また、食への関心が持てるよう日々の保育につながる食育活動に取り組んでいる	日々の生活をするうえで自分だけでなく、皆が気持ちよく生活するための声掛けをし、一緒に考え、他人の気持ちを知らず行動に移せるようになってきている。また、食育活動では、健康に過ごすための「身体と食・物の関連」について知る機会が多くあった。	B	B	ゲームをもとに公開保育など研修を積むことは、職員が同じ視点で子どもの表れを捉えたり、支援の仕方を見たりすることができるため、より保育に繋がると思う。 運動会で自分たちでこんなに片付けができるのかと驚かされた。子どもの思いにそって遊びの場作りだけでなく、子に合った片付けまでさせることが、より安全で子どもの思いに合った遊びになっていけるように思った。	養護面、生活習慣にも目を向け、発達に合った援助や支援を行っていく。食育活動では、目の前で野菜が育つ様子や、直接触れたりする機会を設ける。また、保護者にもそのような取り組みを伝えていく。
4 特別支援 教育・保育	(1) 支援体制づくり	支援の必要な子どもの様子を理解し、支援の方法を職員間で検討している。実践したことを振り返り、次の支援に生かしている	支援の必要な子どもたちのエピソードを語り合い個々の成長を感じている。また、支援担当者会議やサポート強化事業を通して、子どもの行動の意味や支援方法が分かると安心して保育することができた。	A	A	ベテラン職員も若手職員も大切にされていることは、職員の異動があってもよい雰囲気をつくることや同僚性を高めることも繋がる。園長先生が職員の価値付けをされていることもよいと思う。	支援の必要な子どもだけではなく、その遊びに興味のある子が自由に参加できるようにして、自然な交流ができるようにする。 支援児担当者会議ではリーダー保育者も参加し、共通意識の元、様々な意見を参考に保育ができるようにしていく。
5 組織運営	(1) 組織体制の充実	各自が一歩先まで見通しを持ち、自分の役割を自覚し、責任を持って行っている	企画案を作成する時に5W1Hを意識した計画を立て、保育が見通しを持てるようにした。計画を立てる上で困った時は、先輩職員に相談できる雰囲気があり、様々な視点から考えることもできた。個別的に力を付けたこととして余裕を持って計画が出来るようにした。	A	A	運動会でも自分たちでこんなに片付けができるのかと驚かされた。子どもの思いにそって遊びの場作りだけでなく、子に合った片付けまでさせることが、より安全で子どもの思いに合った遊びになっていけるように思った。	行事や保育の企画に余裕が持てるように、幼児会議を月の中旬に設定し、十分な話し合いの後で綿密な計画が立てられるようにしていく。
6 研修	(1) 研修体制の充実	遊び構想や研修テーマを基に園内研修で意見を出し合い、自分たちの言葉で自分たちの学びを生み出している	子どもの遊びの中のひとつの行動や発言を深く読み取るようとし、意味を考えたりしている。それぞれが自由に話し、自分以外の職員の見聞を通じて広い学びが得られている。今後は、会計年度職員への伝え方も意識していきたい。	A	A	保護者向けのボードが大変見やすくなりやす、保護者と子どもとのことについて共有する材料になっている。また、職員がお互いに見え合えることも個々の支援を充実させることに繋がっていると思う。	子どもが表出できるようになったパッションを十分に発揮していけるように、保育者の5つの役割について振り返っていく。会計年度職員もなるべく研修に参加できるようにソフトを調整する。
7 教育・ 保育環境整備	(1) 教育・保育の充実	遊具や用具が整理整頓され、子どもが扱いやすく安全に遊びを楽しむことができるようにし、園庭・保育室が子どものための遊びの環境となるようにしている	子どもが取り出しやすいように整理整頓され、高さや幅などを考え配置し、取り出しやすく、遊びたいものを自分で移動させ使えるようになった。今後は室内環境も力を入れていきたい。	B	A	コードモンの導入で、今後、各お便りが一斉に配信されていくと聞き、父親としては紙よりも見る機会が増えると感じた。	室内環境にも充実や工夫ができるようになる。取り出しやすさや片付けやすさに繋がる環境作りや子ども達が自由に遊び、自由に移動できる環境作りを行う。
8 家庭との 連携・協力	(1) 家庭教育への 支援機能の充実	保護者にわかりやすい、遊びの面白さが伝わるボードやお便りを発信している	お便りボードを保護者が見やすいものに変えた。また、その月の子どもの姿、保育者の手立てについての考察、次月に向けた話し合いをする時、クラスだよりで、内容や言葉の使い方について検討した。保護者に伝わりやすさとし、偏りのないように提示していく。	A	A	小学校としても園児が来校し、交流する事が下級生への思いやりや気持ちを育むことにも繋がると思う。 地域のもの、こと、人と触れ合うことが子どもの五感を伸ばすことになると思う。また、地域に出て、地域の目の前に触れることも、地域で子どもを見守ろうという意識の向上に繋がると思う。また、年長児が小学生になり学校から帰ってくる時、トイレに行きたくなった子が寄る場所を教えた。困ったことがあった時に地域の場所を教えることも大切になるのではないかと。	広い目、深い目で遊びや生活に着目し、わかりやすく、偏りのない見やすいボード作りをしていく。まるごと受け入れるばかりではなく、保護者自身が自立できるようにすることを考えて組織で支援していく。
9 近隣の学校 との連携	(1) 近隣の園との 連携の推進	近隣園、学校と公開保育や公開授業に参加し合ったり、子ども同士が交流して楽しむ機会を計画的に実施している	子ども達が散歩で学校に向かい、職員が協議会や授業参観に参加したりしながら、小学校や中学校に感じられるようになってきた。更に身近に感じられるように通年を通して出かけていく。	A	A	白髭神社、清水港、地域の祭りを子ども達が見たり聞いたり五感で感じることができた。また、コロナ禍で中断していたS型ディサービスでの触れ合いも連絡を密にしながら実施することができた。	小学校の行事の見学だけでなく、施設で遊ぶことを通して交流を深めていく。(特別支援学級も含む) 清水八中グループコミュニケーションスクールで、八中校区の子ども達の様子を知り、保育に活かせるようにする。
10 地域との連携	(1) 信頼される 園づくり	地域の行事に参加したり、地域の社会資源を活用し、子ども達に本物と出会う機会やふれあう機会を作っている	白髭神社、清水港、地域の祭りを子ども達が見たり聞いたり五感で感じることができた。また、コロナ禍で中断していたS型ディサービスでの触れ合いも連絡を密にしながら実施することができた。	A	A	評価はすべてAでいいと思うが、掴みきれない子どもの思いにこれからは寄り添っていくという前向きな評価であればBの評価でもよいと思う。	地域のもの、こと、人に触れ職員も入江の魅力を感じ、子ども達に伝えていく。 S型ディサービスに参加し、地域の方々と直接ふれ合う機会を大切にしたい。